

Title	京大広報 No. 594
Author(s)	
Citation	京大広報 (2004), 594: 1771-1786
Issue Date	2004-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/196504">http://hdl.handle.net/2433/196504</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher



# 京大広報

No. 594

2004. 10

## 目次

### 大学の動き

- 全学教育シンポジウム「京都大学における教育の  
“質の保証”とは - 教育の改善と評価の視点 - 」  
の開催.....1772
- 博士学位授与式.....1773
- 部局長の交替.....1773

### 部局の動き

- 第1回活地球圏科学国際サマースクールを  
インドネシアにて開催.....1774
- 寄附研究部門「応用金融工学  
(野村証券グループ)研究部門」の更新...1775
- 寄附研究部門「組織分化制御学研究部門」  
の設置.....1775

### 寸言

- 京大卒の東京人 堀田 力.....1776

### 随想

- 日本語のシェイクスピア  
名誉教授 喜志哲雄.....1777

### 洛書

- 国際連携 吉川 暉.....1778

### 話題

- 国立七大学総合体育大会主管破り  
実現せず2位.....1779
- 近畿地区国立大学体育大会の結果.....1780
- Clock Tower Concert(第2回)を開催.....1781
- 訃報.....1781
- 日誌.....1782
- お知らせ
- 人文科学研究所創立75周年記念  
中国宗教文獻研究国際シンポジウム.....1783
- 農学研究科公開シンポジウム  
(京都大学21世紀 COE プログラム  
「微生物機能の戦略的活用による  
生産基盤拠点」).....1783
- 第7回情報学シンポジウム.....1784
- 総合博物館平成16年度秋季企画展.....1784
- 平成16年度附属図書館公開企画展.....1786
- 編集後記.....1786



## 大学の動き

### 全学教育シンポジウム「京都大学における教育の “質の保証”とは 教育の改善と評価の視点」の開催

本学では、9月9日（木）・10日（金）の両日、兵庫県立淡路夢舞台国際会議場において、教職員242名の参加を得て、「京都大学における教育の“質の保証”とは 教育の改善と評価の視点」をテーマとする全学教育シンポジウムを開催した。

このシンポジウムは1泊2日の全学的討論集会の形で、本学の教員が多数参加し、教育について全学的な議論や意見を交わすことにより共通理解を深め、今後の教育の改善・充実に資するとともに、部局の枠を越えた教員の交流の場となることを目指して、平成8年から開催され、今回が第8回目となる。

シンポジウムは、高等教育研究開発推進機構長丸山正樹教授の司会進行により、初日は丸山機構長による趣旨説明の後、尾池和夫総長による挨拶および基調講演「京都大学における教育」に始まり、今回のシンポジウムのテーマに関連し、林 哲介副機構長の「教育の評価について」に続き、文学研究科の平田昌司教授から「もしも真なるものが何も教えられないとすれば…」の問題提起があった。

その後、以下の4テーマに分かれ、問題提起を踏まえた分科会討論が行われ、夕食後も引き続き、分科会討論及び全体でのフリー討論が夜半まで展開された。



学部教育における教育の達成度とはなにか  
（文系学部の場合）

学部教育における教育の達成度とはなにか  
（理系学部の場合）

教養教育の質の保証とそのためのシステム

- 全学出動体制は可能か -

（特別分科会）国際交流の展開による国際的人材の育成

2日目は、各分科会から前日の分科会討論の報告があり、最後に全体討論が行われた。

今回のシンポジウムは、各学部における教育の“質”とはなにかを改めて吟味しその改善方向を探るとともに、7年以内に受けることが義務化された「認証評価」を見据え、本学の個性を堅持・発展させることができる教育の自己点検・評価の視点・方法について、終始活発な議論や意見交換が行われ、盛会のうちに終了した。来年度以降も内容をより充実させて開催する予定である。

なお、このシンポジウムの内容は報告書としてまとめ、各部局及び参加者等に配付する予定である。



## 博士学位授与式

9月24日（金）午前10時30分から，京都大学百周年時計台記念館において，尾池和夫総長，教学担当の副学長をはじめ，各研究科長・学舎長出席のもと，博士学位授与式が挙行された。

総長から，各授与者に対し学位記（7月23日付，

9月24日付）が手渡された後，総長の式辞があり，午前11時30分終了した。

各分野別内訳は次のとおりである。

総長式辞は総長室ホームページをご覧ください。

[http://www.kyoto-u.ac.jp/uni\\_int/01\\_sou/040924.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/01_sou/040924.htm)



学 位	平成16年 7 月			平成16年 9 月		
	課程博士	論文博士	計	課程博士	論文博士	計
博士（文 学）	9	1	10	0	0	0
博士（教 育 学）	1	0	1	1	0	1
博士（法 学）	0	0	0	0	0	0
博士（経 済 学）	1	1	2	2	0	2
博士（理 学）	5	5	10	1	1	2
博士（医 学）	8	4	12	3	1	4
博士（社会健康医学）	1	0	1	0	0	0
博士（薬 学）	1	2	3	1	7	8
博士（工 学）	2	3	5	12	4	16
博士（農 学）	6	3	9	2	1	3
博士（人間・環境学）	2	0	2	3	0	3
博士（エネルギー科学）	2	0	2	4	0	4
博士（地 域 研 究）	0	0	0	0	0	0
博士（情 報 学）	3	0	3	5	1	6
博士（生 命 科 学）	1	0	1	2	0	2
計	42	19	61	36	15	51

## 部局長の交替

### 医学研究科長・医学部長

成宮 周医学研究科教授（脳統御医科学系専攻高次脳科学講座担当）が，本庶 佑医学研究科長・医学部長の任期満了に伴う後任として，10月1日付けで任命された。任期は平成18年9月30日まで。





## 部局の動き

## 第1回活地球圏科学国際サマースクールをインドネシアにて開催

京都大学21世紀COEプログラム「活地球圏の変動解明：アジア・オセアニアから世界への発信（KAGI21）」では、7月11日～26日の間、インドネシアのバンドン工科大学（ITB）において第1回活地球圏科学国際サマースクールを開校した。本プログラム推進担当教授6名が赴き、アジア・オセアニアの13カ国から50名の若手研究者・大学院生（本学大学院生8名を含む）を集めて活地球圏に関する講義と実習を行った。毎日6時間、2週間の講義・演習を行い、その後3班に分かれて、京都大学赤道大気レーダーとメラピ火山でのフィールド実習、ITBでのコンピュータ実習も行った。

KAGI21は平成15年度より理学研究科地球惑星科学専攻、生存圏研究所、防災研究所の共同で開始した21世紀COEプログラムで、人間活動の時間スケールで変動し、人と自然の共生をはかる上で重要な空間領域を「活地球圏」と定義し、その変動解明を主な研究対象としている。とりわけ、地球上最大の変動域であるアジア・オセアニアにおいて、これまで我々が積極的に展開してきたフィールド研究を一層発展させて、世界最高水準の研究教育拠点の形成を目指している。また、国際サマースクールを海外協力校で実施して、有能な若手研究者の育成と国際的研究者ネットワークの構築を図ることにより、



第1回活地球圏科学国際サマースクールでの尾池総長による地震学特別講義の様子。講義風景は遠隔会議システムで別の教室の地元受講生にも届けられた（テレビ画面内）。



受講風景。分厚い講義ノートや今回新たに開発したコンピュータ実習教材のCDなどを参加者全員に配布した。

地球科学分野での欧米に伍する新たな極の形成を目指している。

スクール期間中の17日（土）には、ITB 地球科学鉱物工学部と共催で公開シンポジウムを開催した。本学からは尾池和夫総長をはじめ当地域でのフィールド研究で実績を残してこられた3名の名誉教授が加わり、インドネシアの大学・研究機関から主要研究者を招いて活地球圏科学の創生に関する研究討論を行った。同時に、本学学術情報メディアセンターには入倉孝次郎国際交流担当副学長をはじめ KAGI21関係者100名近くが集まり、人工衛星および地上系高速ネットワークでシンポジウム会場と双方向に画像音声情報を交換することにより広範な研究交流を行った。これら一連の活動は、地元のテレビ・新聞で何度も報道された。

現代地球科学を読み解く鍵である活地球圏情報をアジア・オセアニアから発信する今後の拠点活動に期待されたい。

（大学院理学研究科・生存圏研究所・防災研究所）  
詳細はホームページをご覧ください。

<http://kagi.coe21.kyoto-u.ac.jp/jp/meetings/meetings.html>

## 寄附研究部門「応用金融工学（野村証券グループ）研究部門」の更新

10月1日から引き続いて、経済研究所の寄附研究部門「応用金融工学（野村証券グループ）研究部門」が更新されることになった。

その概要は、下記のとおりである。

- 1 部 局 名 経済研究所
- 2 名 称 応用金融工学(野村証券グループ)  
研究部門
- 3 寄 附 者 野村証券株式会社
- 4 寄附金額 総額 1億2,000万円(分割納付)
- 5 更新期間 平成16年10月1日  
～平成19年9月30日  
(平成13年10月1日設置)

- 6 担当教員 教授相当 森平 爽一郎  
教授相当 加藤 康之  
教授相当 戸瀬 信之
- 7 研究目的 高度な金融工学の研究とその実務への応用を促進することを目的とする。
- 8 研究内容 事業リスクに関わる市場リスクについて、業種ごとに分析
- 9 研究課題 事業リスクに関わる市場リスクのモデル分析

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.kier.kyoto-u.ac.jp/fe-nomura/>

## 寄附研究部門「組織分化制御学研究部門」の設置

10月1日から、再生医科学研究所に寄附研究部門「組織分化制御学研究部門」が設置されることになった。

その概要は、下記のとおりである。

- 1 部 局 名 再生医科学研究所
- 2 名 称 組織分化制御学研究部門
- 3 寄 附 者 住友電気工業株式会社
- 4 寄附金額 総額 2億円(分割納付)
- 5 設置期間 平成16年10月1日  
～平成20年9月30日
- 6 担当教員 助教授相当 平井 洋平  
助教授又は助手相当  
平成16年12月1日付け採用予定
- 7 研究目的  
近年の幹細胞の単離、また、維持と分化誘導技術の飛躍的な進展を受けて再生医療の実用化が強

く期待されている。生体内では、機能細胞は互いに規則的に接着・連絡し合いながら高次の組織構造体を形成し、さらに相互に巧妙に機能調節を行っている。再生医療を実現するため、細胞間相互作用を制御し細胞が有機的に繋がった組織構造体の形成を可能にする技術に関する研究を行う。

- 8 研究内容  
上皮組織に作用して強力に組織構築を誘導しその形態を制御するエピモルフィンを用いた組織形態形成の機構解析・制御研究
- 9 研究課題  
・エピモルフィンの作用機構の詳細を解析しその生物学的意味を探る。  
・細胞の組織化(形態分化)メカニズムを解析しその制御を試みる。  
・組織形態異常に起因する疾患のモデル作成を試みると共に、有効治療法の手がかりを探る。

## 寸言

## 京大卒の東京人

堀田 力

今はどうか知らないが、私が法務省の官房人事課長や官房長をしていた八十年代、九十年代のころは、霞ヶ関は東大卒の巣窟であった。

時たま各省庁の人事課長、あるいは官房長が集まる会食の席が設けられることがあって、出てみると、何となくみんながなれなれしい雰囲気である。「法務省だから敬遠されるのかな」と思ってそれとなく会話を聞いていると、人の噂話がほとんどで、同窓会のおもむき。「そうだ、この集まりは東大同窓のエリートの集まりなのだ」と気付いて、孤高(?)を保つ仕儀と相成った。

政府の審議会などもそうで、任命される委員は東大の人脈が活用されている気配がある。

そんな中で、今はもう違うが、私が法務省にいたころは、幹部に、珍しく京大卒が多かった。だからよく、噂好きのマスコミに、法務省の京大人脈などと書かれ、酒の席で東大卒の先輩、同僚から「お前らは京大で固めるためにオレをいいポストにつけない」などとからまれたりした。

しかし、これは偶然のしわざであるうえ、京大卒というのは、個性が強くてまとまりが悪い。連携の精神に欠けるのである。さらにいえば、その一時期を除けば、法務省も、ほかの省庁と同じく、幹部の大多数は東大卒なのであるが、そういう状態の時、マスコミは、決して東大人脈などとは書かない。あたりまえのことで、ニュースにならないのである。

そういうわけで(どういうわけだかよくわからないが、ともかく)法務省を含め、霞ヶ関には京大人脈など存在したことはないと思う。

とはいえ、京大卒には、けっこうユニークな人がいた。

法曹畑でいえば、ロッキード事件に関する国会答弁でひんぱんにテレビ報道された安原美穂元検事総長である。私は彼が刑事局長の時部下であったが、いかにも京都人らしい京都人であった。絶対に政治



に妥協しない人で、総理じきじきの命令であっても、ダメなものはダメとゆるがなかった。ただ、京都弁の使い方が上手で、断り方がいかにもやわらかい。東京での京都弁はなかなか有用であると知った。

私が官房長の時、司法改革をとにもかくにも前進させてくれた「三奇人」が、そろって京大卒であった。最高裁長官の矢口洪一さん、法務事務次官根来泰周さん、日本弁護士会長の中坊公平さんである。

「三奇人」というのは部下がつけた呼称で、もちろん本人の認識はそうではないはずである。司法改革についてはそれぞれに理想像を持っていて、しかもそれを実現するための戦略はきわめて現実的で、時にえげつないものであった。相互に利害が対立する巨大な組織をかかえながら、打々発止とわたりあったが、最後に何とかまとまったのは、本音で語ることができたお互いの信頼感であろう。肌が合ったのである。ここでも京都弁は重大な役割を果たした。「そんなバカな案はダメに決まってるでしょう」というのと、「そんなアホなこと言わはったかて、どうしようもありまへんがな。もうちょっと何とかなりまへんのかいな」というのとでは、えらいちゃう(随分違う)のである。

大きな司法改革の取りまとめと仕上げについては、佐藤幸治教授の功績絶大である。佐藤教授は、東京人ではないが、どれだけ東京に通われたことか。典型的な京大教授であって、市民の精神に徹した信念の人である。そのため、最高裁事務総局の役人(裁判官)たちを怒らせ、口惜しがらせ、落胆させた。そのようにして、司法改革は、あくまで市民のためのものという筋が通ったものとなった。この改革によって、日本の司法は、やっと、憲法上果たすべき役割を果たすものとなるであろう。

ゆれ動く時代の中で、歴史的使命を果たす改革を実現するには、信念を持って正しく先を見ている人が必要である。京大は、その供給源であると実感している。

(ほった つとむ 弁護士・さわやか福祉財団理事長 昭和33年法学部卒業)



## 随想

## 日本語のシェイクスピア

名誉教授 喜志 哲雄

イギリス人の学者と一緒に『日本におけるシェイクスピア』(Shakespeare in Japan)という本を書いた。シェイクスピアの作品が日本でどのように受容されて来たかという問題については、このところ外国でも関心が高まっている。ただ、この問題を扱った外国語の本や論文のほとんどは、もっぱら日本でのシェイクスピア上演を対象にしている。しかも、筆者は必ずしも日本語ができないから、上演の視覚的側面のみを採り上げる。これはちょっと困るのではないか。読むにせよ上演を観るにせよ、大多数の日本人にとってのシェイクスピアとは、翻訳されたシェイクスピアなのである。それなら、シェイクスピアを日本語に訳す時にはどんな問題が起るかを吟味すべきではないのか。そう考えて、私もはこの本を書いた。



シェイクスピアの戯曲は原則として韻文で書かれている。だがそれを日本語に訳すと、必ず散文になる。日本語の韻文の基本は音数律だが、英語の韻文は、一行の音節の数だけでなく、ストレスのおかれる音節とそうでない音節との規則的な配列にも依存している。それを日本語で再現するのは不可能である。もちろんシェイクスピアを七五調で翻訳しようと思えば、できないことはない。現に『新体詩抄』にはハムレットの有名な独白の邦訳が収められているが、その冒頭は「ながらふべきか但しまた、ながらふべきにあらざるか、ここが思案のしどころぞ」(原文の表記を少し変えた)となっている。かりに全篇をこの調子で訳した『ハムレット』を上演したら、おそらく十数時間かかるだろう。それに "To be or not to be, that is the question" という原文は、最後の単語を除けば単音節語だけで成立っている。そこから生じる切迫感をのんびりした七五調の訳文にこめることはできない。大抵の翻訳者は、さまざまな工夫をこらして韻文らしさを出そうとしては

るが、上演を念頭におく限り、シェイクスピアの日本語訳は散文にならざるをえないのである。

英語と日本語の語順の違いも厄介だ。大まかな言い方をすると、日本語の文は動詞で終ることが多いが、英語ではそれは稀である。『オセロー』の主人公は最後に自殺するが、この自殺はなかなか手がこんでいる。彼はかつてヴェニス市民に暴力をふるった男をこらしめたことがあるのだが、その話をし、「そしてその男をこのように刺してやりました」と言いながら、わが身を剣で刺す。この場合、原文では「このように」に該当する副詞が最後に来る。オセローは昔の自分の行為と現在の自殺の両方をこの言葉にこめ、いわば満を持して あえて言うなら、かなり芝居がかったやり方で 死ぬのである。この効果を出すためには、「このように」はどうしても最後に来なければならない。しかし日本語だと、動詞の後に副詞が続くのは不自然だ。不自然でも劇的效果を優先させるか、それとも日本語としての自然さを尊重するかという難しい選択を、訳者は迫られるのである。

こういう例はいくらでも挙げることができるが、私が言いたいのは、ある言語において あるいは、ある文化において 自明であると感じられる原理が、別の言語や文化においても自明であるという保証は、どこにもないのだということである。異文化に属する者同士が理解し合うことは可能だと私は信じているが(そう信じていなければ、外国文学の研究はできない)、こういう理解の前提には、自らの文化が他の文化といかに異っているかという点についての、的確で冷静な認識がなければならないであろう。

(きし てつお 元文学研究科教授 平成11年退官、専門は英米演劇)



## 洛書

## 国際連携

吉川 暹

21世紀 COE プログラムでタイに拠点を開いて1年がすぎた。これからは他分野でも東南アジアとの連携が重要になるのではと考え、経験を紹介させていただくこととした。

エネルギー理工学研究所がエネルギー科学研究科と生存圏研究所とともに提案した21世紀 COE プログラム「環境調和型エネルギーシステムの研究教育拠点形成事業」は、太陽エネルギー、水素エネルギー、バイオエネルギー、システム評価の4分野の国際的拠点形成を目指しており、全国の COE プログラムの中でもトップで採択されたこともあって、いろんな事業に取り組むことを約束してきた。海外拠点の構築もそのうちの一つで、外国の諸事情にあった新エネルギー提言を行い、必要な共同研究を進めることになっている。

昨今、国際連携で、これまでの欧米志向から、アジアを重視する気運が高まってきたのは、これらの国々で、優秀な人材が研究開発を志向しつつあるのと、先端産業を育成しうる先端研究機関の整備にたいする必要性の高まりから、我が国にも強い協力要請があるからであろう。中でも、タイは、昨年10月の APEC 開催にみられるように、タクシン首相の馬力で東南アジアの“ハブ国”を目指しており、先端研究志向がとりわけ強く、2001年にサイエンスパークに NSTDA（科学技術開発庁）の3研究所を開設したのを機に、各国との活発な連携を展開している。

我が国でも、最近はタイとの連携が活発で、例えば、阪大では、30年来の生物分野における協力をベースに、マヒドン大学に東南アジアバイオテクノロジー共同研究拠点を開設した。東工大でも、100名以上の卒業生のネットワークを活かして、タイへの強力なサポート体制を築いており、2002年には NSTDA にオフィスを開き、大学院向けの講義の配信を行っている。また、今年11月には産業技術総合研究所が NSTDA との包括的な協力協定を締結する他、早稲田、東海大などがユニークな活動を展開し



ている。

京大は、東南アジア研究所が昔からバンコクに拠点を設けてきたが、全学的な組織になっていないことから、21世紀 COE でも拠点（オフィス兼宿泊施設）を設けることにした。現在は調査員が一名駐在し、情報収集や共同研究連携を図っている。

そもそも、タイとの関係は、2001年にラジャマンガラ工科大学（RIT）との研究協力協定を締結したことに始まり、留学生5人を受け入れ協力を進めてきたが、21世紀 COE プログラムの発足に伴い、昨年から、エネルギー環境合同大学院大学（JGSEE）とも連携をスタートした。JGSEE は、キングモンクット大学、チェンマイ大学など5大学が集まって、7年前にスタートしたユニークな連合大学院大学であり、既に、90人を越す博士課程学生をかかえ、京大のエネルギー科学研究科と比べても遜色ない実績をもつとともに、研究分野も相補的であり、今後、良きパートナーシップが築けるものと期待している。

今年は、これらの協定をベースに、7月に120名以上参加の国際スクールを開催するとともに、12月には、タイ国エネルギー大臣を招いて JGSEE・京大エネルギー COE 主催の国際会議“Sustainable Energy and Environment（SEE Meeting）”を開催する予定である。既に、26カ国から250件以上の応募があり、論文は学会の特別号として出版予定である。共同研究も徐々にスタートしつつあるが、これからは、互恵をベースに他の東南アジア各国ともエネルギー環境分野でのフィールドワークを生かした連携を推進するために、バンコクオフィスを拠点に、ネットワークを活かしたネットワーク構築を図りたい。

なお、COE バンコクオフィスは学内にはオープンで利用いただけますので、アジアでの活動を計画されている方は、ご一報ください。皆様のご活用を期待します。

（よしかわ すすむ エネルギー理工学研究所教授  
専門は次世代太陽電池・環境適合エネルギー）

## 話題

## 国立七大学総合体育大会主管破り実現せず 2 位

第43回国立七大学総合体育大会が本年 7 月17日（土）の開会式を挟み、昨年12月 6 日（土）の「アイスホッケー」を皮切りに 8 月12日（木）の閉会式まで、27競技種目にわたり北海道大学の主管で開催された。

本学は、順調なスタートを見せたが、地元北海道

大学が各種目優位に試合を進め、点数を上げていく中、後半戦思いうように点数が伸びず、追い上げが実らず今年も 2 位を確保するに終わった。

なお、本大会の成績結果は、以下のとおりである。

（最終成績）

	北海道大学		東北大学		東京大学		名古屋大学		京都大学		大阪大学		九州大学	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
アイスホッケー		8		10		1		2		3		4		6
ス キ ー	-	-	-	-		3		2		4		6		1
航 空	-	-		6		1		8		4		2		3
馬 術		2		3		8		1		6	-	-		4
柔 道		10		8		1.5		1.5		3		5		5
少 林 寺 拳 法		1		2		6		3		10		8		4
ヨ ッ ト		6		4		1	-	-		2		3		8
空 手 道		10		8		2		3		4		6		1
剣 道 男子		8		2		6		4		3		10		1
女子		8		2		1		4		6		10		3
硬 式 テ ニ ス 男子		8		3		4		6		2		10		1
女子		3		6	-	-		2		4		8		1
水 泳		10		1		3		8		6		4		2
バスケットボール 男子		6		10		4		1		8		2		3
女子		6		4	-	-		8		1		3		2
アーチェリー		6		3		10		2		8		4		1
弓 道 男子		8		10		2		6		1		4		3
女子		6		8		2		10		3		4		1
陸 上 競 技 男子		2		8		3		6		10		4		2
女子		3		4		8		10		6		1.5		1.5
卓 球 男子		3		8		4		6		10		2		1
女子		6	-	-		4		2		1	-	-		3
ソフトテニス 男子		4		3		2		6		8		10		1
女子		8		3		1		10		4		6		2
ハンドボール		10		4		3		1		8		2		6
バレーボール 男子		10		2		3		6		8		1		4
女子		8		6		1		4		3		2		10
体 操		2		4		3		10		8		6		1
硬 式 野 球		4		1		8		6	-	-		3		2
バドミントン 男子		8		10		1		6		2		3		4
女子		10		4		2		8		6		3		1
フェンシング		1		6		4	-	-		8		3		2
ゴ ル フ		6		1		4		3	-	-		2	-	-
準 硬 式 野 球		8	-	-		4		1		3		6		2
ラ ク ロ ス		4		1		6	-	-		3	-	-		2
自 動 車		10		3		6		4		2		1		8
総 合	1	212.0	4	158.0	6	122.5	3	160.5	2	168.0	5	148.5	7	102.5

## 近畿地区国立大学体育大会の結果

第42回近畿地区国立大学体育大会は和歌山大学の当番により、5月9日（日）のラグビーから8月26日（木）水泳にかけて熱い戦いが始まった。本学は、陸上（男子）や体操（女子）で優勝をしたが、男子は総合4位・女子は総合5位と表彰台にあと1歩及

ばなかった。なお、本大会の成績は以下のとおりである。

得点表（男子）

種目 NO	大学名 種目名	滋賀大	京都大	京教大	工織大	大阪大	大外大	大教大	神戸大	兵教大	奈教大	和山大
1	陸上競技		10			7		5	4			
2	水泳		5			7		10	4			
3	野球	4		7				10	5			
4	軟式野球					10		4	5	7		
5	テニス		4		5	7			10			
6	ソフトテニス		4.5			4.5		10	7			
7	バスケットボール			5		4		10	7			
8	バレーボール			7			4.5	10				4.5
9	サッカー	5						10	7		4	
10	ラグビー	4.5		4.5				7	10			
11	卓球		5		4	10			7			
12	バドミントン				4	5	7	10				
13	柔道	5				4			10			7
14	剣道	4.5						10	4.5			7
15	体操		5	7				10				
16	ハンドボール		7			5		10				4
17	弓道	10			4					7		5
合計得点		33	40.5	30.5	17	63.5	11.5	116	80.5	14	4	27.5
総合順位		5	4	6	8	3	10	1	2	9	11	7

得点表（女子）

種目 NO	大学名 種目名	滋賀大	京都大	京教大	工織大	大阪大	大外大	大教大	神戸大	兵教大	奈教大	奈女大	和山大
1	陸上競技			10				5	7			4	
2	水泳			4		7	5	10					
5	テニス					5		10	7			4	
6	ソフトテニス	4.5	4.5	10							7		
7	バスケットボール			5				10		4	7		
8	バレーボール			7				10		4.5			4.5
11	卓球					10			5			7	4
12	バドミントン		4	5		7			10				
14	剣道		7					10	4.5	4.5			
15	体操		7					10					
16	ハンドボール			7			5	10		4			
17	弓道			10	4		7						5
合計得点		4.5	22.5	58	4	29	17	75	33.5	17	14	15	13.5
総合順位		11	5	2	12	4	6	1	3	6	9	8	10

## Clock Tower Concert (第2回)を開催

京都大学では、大学と社会との協力・連携を一層深めるため、学生・教職員をはじめ市民の皆さまにも参加していただける、開かれたコンサート「Clock Tower Concert」を開催しており、その第2回目を、百周年時計台記念館・百周年記念ホールにおいて9月21日夕刻に開催した。

今回は、チェコ国立ヤナーチェク音楽学院のダニエラ・ヴェレボヴァ助教授によりピアノコンサートが行われた。同助教授は、京都大学21世紀 COE プログラム「動的機能機械システムの数理モデルと設計論」により招聘されたチェコ科学アカデミー材料研究所のダニエラ・ショーブ教授のご夫人で、石川県でのコンサートのためショーブ教授とともに来日された。コンサートでは、同助教授のご専門でかつ

チェコにも関連が深いショパンやスメタナ、ドヴォルザークなどチェコを代表する作曲家の曲に加え、チェコ東部の伝統音楽、日本の琵琶湖就航の歌、中国地方の子守唄、赤とんぼを演奏され、約330名の参加者はピアノの音に魅了されていました。



## 訃報

このたび、<sup>うえはらしげ お</sup>上原重男<sup>かわくけいさぶろう</sup>霊長類研究所教授、<sup>かわくけいさぶろう</sup>川口桂三郎<sup>つつ い てんそん</sup>名誉教授、<sup>つつ い てんそん</sup>筒井天尊<sup>つつ い てんそん</sup>名誉教授が逝去されました。ここに、謹んで哀悼の意を表します。以下に各氏の略歴、業績等を紹介します。

### 上原 重男 霊長類研究所教授



上原重男先生は、8月24日逝去された。享年59。

先生は、昭和44年東京大学農学部林学科卒業、同46年同大学大学院農学系研究科修士課程林学専門課程修了、同48年京都大学大学院理学研究科

修士課程動物学専攻修了、同51年同博士課程動物学専攻単位修得退学後、同56年京都大学理学博士の学位を授与された。昭和51年から同53年にかけて国際協力事業団技術協力専門家としてタンザニアに派遣され、野生チンパンジーの保護と生態調査に従事された。その後、東京大学理学部人類学教室客員研究員、札幌大学教養部助教授・教授、同大学法学部教授を経て、平成11年京都大学霊長類研究所教授に就任された。

先生は、京都大学アフリカ類人猿研究グループ結成当初からの中心的メンバーで、タンザニア・マハレ山塊国立公園の野生チンパンジーの採食する植物やその採食技術の年齢性別による違いなどの研究に携わられた。近年、チンパンジーの捕食行動を被補食哺乳動物の研究に拡張されるとともに、文化霊長類学に関心を持ち、マハレとウガンダ南西部カリンズの森のチンパンジーのシロアリ採食の地域間比較研究などに取り組まれた。また、日本霊長類学会の学術誌「霊長類研究」の編集長を務めるなど、霊長類学に関する論文、専門書、教科書の執筆や編集に携わるほか、国内外の若手研究者の育成にも力を尽くされ霊長類学の発展に大きく寄与された。スワヒリ語と英語が堪能で、自然を愛するざっくばらんな国際人として人々に親しまれる存在であった。

(霊長類研究所)



## 川口 桂三郎 名誉教授



川口桂三郎先生は、9月5日逝去された。享年90。

先生は、昭和13年京都帝国大学農学部農林化学科を卒業、同大学助手、財団法人大原農業研究所、京都帝国大学農学部助教授を経て同22年教授に就任、土壌学講座を担当された。昭和52年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和49年11月から同51年11月まで京都大学評議員として、大学の運営に貢献された。

本学退官後は昭和54年6月から同60年4月まで国際協力事業団によるタイ国立カセサート大学資金・技術援助プロジェクトにおいて専門家団のリーダーを務められた。この功績により昭和59年8月同大学

から名誉学位の称号を受けられた。

先生は水田土壌学、中でも水稻の根腐れの原因究明と対策確立、児島湾干拓地土壌の生成論、さらには昭和40年に設立された東南アジア研究センターとともに熱帯アジアや地中海地域をも含めた世界の主要稲作土壌の特性把握、肥沃度評価、土壌材料分類といった総合的かつ組織的な研究を展開され、そのような優れた研究業績に対して、昭和49年日本農学賞が授与された。

また、日本土壌肥料学会、土壌物理学会などにおいて、会長、評議員、支部長の要職を歴任された。これらの一連の研究教育活動、学界活動により、昭和62年4月勲三等旭日中授章を受けられた。

(大学院農学研究科)

## 筒井 天尊 名誉教授



筒井天尊先生は、9月12日逝去された。享年78。

先生は、昭和25年京都大学理学部化学科を卒業、同大学大学院に在学した後、同大学工学部助手、講師、工学研究所助教授、原子炉実験所助教授を経て、同41年原子炉実験所教授に就任、廃棄物処理設備研究部門を担当された。平成元年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和57年4月から同60年3月まで、京都大学原子炉実験所附属原子炉応用センター長を歴任され、大学の管理運営に貢献された。

先生は、昭和35年原子炉建設本部において当初の現地測量と土木・建築以外のすべての設備工事について計画立案から施工管理に至るまで担当され、とりわけ安全面で原子炉建設に大きく貢献された。

先生のご専門は、放射性廃棄物管理工学で、まだ原子力研究が黎明期にあった時代から長年にわたり、放射性廃棄物の処理・処分にに関する研究に取り組み、化学沈殿法による放射性廃水中核種の除去に関する研究等、数多くの優れた業績を残され、わが国における放射性廃棄物管理工学の礎となりこの分野の発展に大いに貢献された。

(原子炉実験所)

## 日誌 2004.8.1 ~ 8.31

- 8月1日 総長、中華人民共和国を訪問(5日まで)
- 17日 オープンキャンパス(18日まで)
- 30日 役員会

## お知らせ

### 人文科学研究所 創立75周年記念 中国宗教文献研究国際シンポジウム

1. 日 時：11月18日～11月21日
2. 場 所：京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール（エレベーター有）
3. 定 員：300名
4. 受 講 料：無料
5. 申 込 方 法：不要
6. 使 用 言 語：日本語，英語，中国語（日本語アブストラクト有）
7. 問い合わせ先：〒606 - 8265 京都市左京区北白川東小倉町47 人文科学研究所  
TEL：753-6997 E-mail：sympo75@zinbun.kyoto-u.ac.jp  
詳細はホームページをご覧ください。  
<http://coe21.zinbun.kyoto-u.ac.jp/is-religion-2004.html>

### 農学研究科公開シンポジウム

（京都大学21世紀 COE プログラム「微生物機能の戦略的活用による生産基盤拠点」）

#### お酒からのメッセージ 食・生活・文化との関わりを探る

1. 日 時：11月30日（火） 13：30～16：00
2. 場 所：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール
3. 講 演 者：栗山一秀（月桂冠大倉記念館・名誉館長）  
伏木 亨（京都大学大学院農学研究科・教授）  
総 合 司 会：清水 昌（京都大学大学院農学研究科・教授【21世紀 COE プログラム拠点リーダー】）
4. 定 員：500人（要申込・先着順）
5. 参 加 費 用：無料
6. 申 込 方 法：TEL・FAX・E-mail により住所，氏名，年齢，性別，職業，電話番号をお知らせ願います。
7. 申 込 締 切 日：11月12日（金）《必着》
8. 問い合わせ先：農学研究科 教育・研究協力課研究協力掛  
TEL：753 - 6411 FAX：753 - 6020  
E-mail：sympo@adm.kais.kyoto-u.ac.jp  
詳細はホームページをご覧ください。  
<http://www.coe21.kais.kyoto-u.ac.jp/Events04/041130sympo/041130sympo.htm>

## 第7回情報学シンポジウム 「予測とシステム同定」

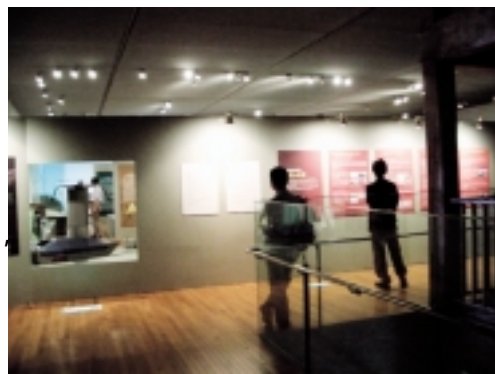
1. 日 時：12月2日（木） 10：30～17：00
2. 場 所：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール
3. プログラム：挨拶  
 予測・システム同定とその周辺  
 脳における情報表現，ダイナミクスの重要性  
 模倣・相互適応と人間 - ロボットインタラクション  
 将来の報酬予測と他者の状態推定  
 推定，同定と制御
4. 定 員：500名（先着順）
5. 受 講 料：無料（申込不要）
6. 問い合わせ先：〒606 - 8501 京都市左京区吉田本町  
 大学院情報学研究科 乾 敏郎  
 TEL 753 - 3146  
 詳細はホームページをご覧ください。  
<http://www.i.kyoto-u.ac.jp/>

研究科長 船越 満明  
 教授 乾 敏郎  
 教授 青柳富誌生  
 講師 尾形 哲也  
 沖縄大学院大学先行的研究事業  
 代表研究者 銅谷 賢治  
 教授 片山 徹

## 総合博物館平成16年秋季企画展 新世紀を創る - 京都大学の工学と貴重技術史資料 -

京都大学の工学は、ひとと社会の夢を実現する一翼をにない、快適な暮らしと発展する社会を支え、魅力ある環境を創り出す役割を果たしてきました。

本企画展では、百年をこえるゆたかな歴史をもつ京都大学の貴重な技術史資料を公開し、また新世紀を創造する工学研究の最先端を展示することによって、本学における工学・技術の発展とその成果未来への夢を広く社会に紹介します。さらに身近な自然現象と遊ぶ“おもちゃ”や実験体験のコア・ブースを設け、未来を担う子供たち、若者たちに工学のおもしろさや楽しさを伝えます。



・ 京都大学の工学 - 歴史と未来 -

・ 工学技術の発展と貴重技術史資料

秘蔵の技術史資料を公開 - 実験機器・教育機器・模型・書籍・設計図・写真

百年記念館（時計台）、建築学教室本館、土木工学教室本館等の歴史遺産

最先端のハイテク、ナノテク、情報、環境、生活空間

「ひとが語る工学の革新」、大きな功績をあげた人々、写真、資料

・ 工学の智恵・遊び - 夢を育む“おもちゃ” -

“アインシュタインのはてな？”、“むかし冷やすのはむずかしかった”、“液体の体操・気体のつぶやき”、

“回わって 回わって...回わあーるうー”などのコーナーに、水飲み鳥・ミニ蒸気機関車・ポンポン蒸気

舟・ミニ火力発電などの“おもちゃ”を展示し実演して、工学の智慧と遊びごろの一端に触れていただこうと思います。

実演は毎週土曜日に。ぜひお訪ね下さい。

漫画形式の展示見学日記もつくれます。

1. 期 間：9月29日（水）～ 12月26日（日）
2. 開館時間：9：30～16：30（入場は16：00まで）
3. 休 館 日：月曜日・火曜日（平日・祝日にかかわらず）
4. 入 館 料：一般400円，大・高校生300円，中・小学生200円（20名以上団体割引有）
5. 会 場：総合博物館第2企画展示室（南棟2階）  
〒606 - 8501 京都市左京区吉田本町  
TEL 753 - 3272  
詳細は総合博物館ホームページをご覧ください。  
<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>

**企画展関連行事**（事前申込が必要です。団体での申込み希望の方は事業掛まで問い合わせ願います。）

### 「100年前ならノーベル賞 - 霧箱で放射線の飛跡を見よう - 」

イギリスのウィルソンは霧箱を発明し、放射線の飛跡観測をすることで、1927年にノーベル賞を受賞しました。皆さんも霧箱を工作して、放射線の飛跡を見てみましょう。

1. 期 日：12月4日（土），12月11日（土），12月18日（土），12月25日（土）
2. 時 間：10：00～11：00，15：00～16：00
3. 会 場：総合博物館2階セミナー室
4. 対 象：小学生～大人
5. 定 員：各15名
6. 参 加 費：総合博物館入場料のみ必要（大人400円，大学生・高校生300円，中学生・小学生200円，70才以上であることの証明をお持ちの方は，無料）
7. 申込締切：11月20日（土）
8. 申込方法：（官製往復はがきでの申込）  
「実験B」の希望    参加希望日    「午前」「午後」の希望    住所    電話番号  
氏名    年齢（学生は学校名及び学年を必ず明記のうえ，下記宛先にお申し込み下さい。  
（電子メール・FAXでの申込）  
題名：「実験B申込」とし，上記    ～    を記入のうえ，下記宛先に送信してください。「申し込み受付完了」を確認するメールまたはFAXを返信します。申し込み後，数日経っても確認メール・FAXが届かない場合は，事業掛まで電話にてお問い合わせ下さい。
9. 申込・問合せ先：総合博物館 事業掛  
〒606 - 8501 京都市左京区吉田本町  
TEL：753 - 3272    FAX：753 - 3277  
申込用 E-mail    [info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp](mailto:info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp)  
詳細は総合博物館ホームページをご覧ください。  
<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>



## 平成16年度附属図書館公開企画展

## 「長州志士の軌跡 幕末維新展 - 直筆が語る実像 - 」

附属図書館が主催する公開企画展は、附属図書館等が所蔵する貴重な資料を展示・一般公開するとともに、研究の現状と成果を紹介しており、今回で122回目を迎えます。

今回は、幕末維新に焦点をあて、単なる討幕運動の成功物語ではなく、尊皇攘夷運動の高揚と敗退・討幕への道、維新と分裂・終息の過程を描き、幕末維新の志士たちの軌跡をたどります。展示資料は、坂本龍馬書簡の掛け軸、品川宛伊藤書簡や長州人覚書等を張り交ぜた屏風をはじめ、硯その他志士たちの愛用品等の予定です。多数のご来観をお待ちしています。

なお、詳細は附属図書館ホームページに掲載しています。

(<http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/tenjikai/2004/>)



1. 期 間：11月20日（土）～12月19日（日）  
（休館日：期間中の月曜日）
2. 会 場：思文閣美術館（京都市左京区田中関田町2 - 7）
3. 開 館 時 間：10：00～17：00
4. 入 館 料：大学生以上（400円）、高校生（300円）  
中学生以下（無料）  
なお、京都大学の構成員は、学生証・職員証の提示により無料
5. 主 催：附属図書館、思文閣美術館
6. 後 援：京都府教育委員会、京都市教育委員会
7. 指導と助言：高橋秀直（京都大学文学研究科助教授）
8. 記念講演会：日時：11月20日（土） 14：00～15：30  
場所：思文閣美術館 先着150名（入場券にて参加できます。）  
講師：高橋秀直  
演題：「長州志士の軌跡」

## 編集後記

10月に入り、朝晩はだいぶ涼しくなってきましたが、今夏の記録的な猛暑を引きずっているのか、中旬になっても日中はまだまだ暑い日が続いています。記録といえば、日本に上陸した台風も記録的に多かったようですし、なんといっても月初めには、イチローが大リーグの年間最多安打記録（262本）を達成しました。

この京大広報も今月号が No594、来年4月には600号になります（卒業式や入学式の号外は除く）。イチローのペースよりはだいぶ遅いのですが、1969年5月から、当初は毎週、70年代に入ってから毎年11号ずつ（8月はお休みです）、35年続けてきました。近年は、京都大学のホームページも充実しており、この「京大広報」を発行する意義も「お知らせ」から「記録として残す」方向へと変わっているような気がします。そんなわけで、時計台のことを「京都大学百周年時計台記念館」と正式名称を使ってきましたが、その後ろに「百周年記念ホール」まで付くようですと、なにか長ったらしく重複しているように思います。慣れ親しんだ通称「時計台」でも十分だと思うのですが、いかがでしょう？

（成生記）